

カンボジア事務所の織物ボランティア

CYRでは、織物研修センターの運営資金を賄うために、カンボジアではもとより、日本でも織物製品の販売に力を入れています。注文がたくさんあると、精一杯がんばって縫製を間に合わせなければなりません。日本からの注文がとて多い時には、カンボジア事務所の販売品が底をつきそうになることもあります。

カンボジアで縫製品を作っていくときには、色々な面で気をつけなければならないことがあります。例えばミシンの具合、縫い目をきれいにそろえる、チャコで表にも映るような印をつけない、ボタンホールとボタンをつける位置がずれない、などなど。カンボジアではそれほど気にしないことでも、日本では認められないことがたくさんあります。

特に色合わせについては、日本人の感覚とはかなり異なるので、どうしても日本人の仕事になります。

10月から力強いボランティアが現れました。会員の唐沢さんは、2005年から義手・義足作りの勉強のため、プノンペンに滞在しています。土曜日の休みを利用して月2回手伝っていただけることになりました。本当にうれしいことです。

■CYR織物事業

[カンボジア女性の自立支援のTOPへ](#)

■織物・注文の流れ

日本国内では、カンボジアで織られたシルク製品を販売し、その収益を織物事業に還元しています。

これらのシルク製品は、

- ① CYR(東京)が、カンボジア事務所に製品を注文する
- ② カンボジア事務所は、東京の注文に基づいて、織物研修修了生に生地を依頼する
- ③ 生地が織り上がったら、縫製者に、縫製を依頼する
- ④ 製品が完成し、カンボジアから東京に届く
- ⑤ CYRが、販売する

といった流れで、みなさまのお手元に届きます。



CYRの製品は全て手作り。出来上がりも様々です。



作業中の唐沢さん



カンボジア独特の色合いで作成した品々